

この評価ソフトは、改正省エネ基準の経過措置が終わる2015年3月までの期間限定で使用できます。

CASBEE 新築[簡易版]

使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版)2010年進補版Ver.2 (BPI/BEI対応) 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010bpi&bei(v.2.11)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)箱根小涌園新ホテル	階数	地上9F地下1F
建設地	足柄下郡箱根町二ノ平字南長尾1297-2他	構造	RC造
用途地域	第一種低層住宅専用地域・準防火地域	平均居住人員	480 人
気候区分		年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	ホテル	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年11月 予定	評価の実施日	2014年12月1日
敷地面積	38,618 m ²	作成者	(株)日本設計
建築面積	3,747 m ²	確認日	2014年12月1日
延床面積	15,632 m ²	確認者	(株)日本設計



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9 ★★★★★

S: A: B+: B: C:

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

参照値: 100%

建築物の取組み: 78%

上記+ 以外の: 78%

上記+: 78%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.8

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.2

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<ul style="list-style-type: none"> 自然に溢れる喜びがある SENCE OF NATURE を重視し、自然の中に泊まる感覚を味わえるホテルを目指す シンプルだが上質な建築空間、ここだけの自然環境を活かした建築空間の実現 		<ul style="list-style-type: none"> 自然公園法を遵守し、周辺の自然と調和した景観を形成 既存建物で暗黒となっていた沢を開渠とし、周辺の樹木等の自然環境を復元
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
<ul style="list-style-type: none"> 開口部を極力大きく取ることで、自然採光、自然通風を重視した室内環境を形成 	<ul style="list-style-type: none"> 開口部を最大限確保することで開放的な客室や共用部(ロビー、レストラン等)を実現 客室ごとにTEL、LANを整備し、使い勝手の良い居住空間とする 非常用発電設備を設けている 	<ul style="list-style-type: none"> 自然公園内の敷地のため、主に環境省が推奨する樹木を使用した自生種主体の緑地づくり。敷地内の高低差に配慮、沢沿いと台地部に植栽樹種を使い分け。沢沿いには宿泊客が自然に親しめる散策路や休息所を設置。南東側県道に面していた車止上の既存建物を解体、斜面林として復元し、県道からの良好な樹林景観を形成。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<ul style="list-style-type: none"> 新省エネ基準の外皮、庇の採用等により建物熱負荷の軽減 LED照明等の設備を採用し、一次エネルギー消費量の削減に配慮。 	<ul style="list-style-type: none"> スケルトン・インフィルによる、解体、改修が容易な計画 メンテナンス性、耐久性に配慮した材料選定 節水型衛生器具の採用 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地内既存林と新規植栽により、蒸散効果のある被覆面積を大きく確保。一部屋上緑化にも取り組み。

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと。評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される。